

北陸地方における幼稚園の歩みと展望

南 信 子

一、明治時代

(1) 幼稚園の創設

北陸は文化の谷間であるといわれるが、幼稚園の創設に関しては、必ずしもこの言葉はあたっていない。日本の幼稚園は明治九年に最初の幼稚園、東京女子師範学校付属幼稚園、即ち現在のお茶の水女子大学の付属幼稚園ができ、同十九年までには十五の都道府県に幼稚園が設立されたが、石川県においては明治十九年にはすでに三つの幼稚園が開設されていたからである。一つは大聖寺の京遠小学校の幼稚保育場、現在の京遠幼稚園であり、一つは私立金沢幼稚園、現在の金沢大学教育学部の付属幼稚園、もう一つは当時唯一の異色ある幼稚園であったといわれる米国人、ミ

ス・ポートルによって始められた英和幼稚園、現在の北陸学院短期大学付属第一幼稚園である。

しかもこの幼稚園は日本に現在あるキリスト教主義幼稚園の最古のものである。仏教の最も盛んな北陸地方に、このように早くキリスト教幼稚園が設立されたことは全く不思議なことといわざるを得ない。なお、最初の幼稚園が設立された年代を保育学会の調査によってみると、明治三十年までには国内の半数以上の都道府県がそれぞれ幼稚園を始めていたということがわかるが、富山県は明治三十四年に最初の一園をもっており、福井県が最初の一園をもったのは明治四十年であるから、北陸地方と一口にいっても大きな差があるわけである。

(2) 設立の動機

幼稚園設立の動機にもさまざまのものがあつたようであるが、

大きくわけて次の三つの流れがあることを知ることができる。一つは日本の最初の幼稚園がそうであったように、当時教師養成の機関であった師範学校に付設されたもの、次に市町村がその小学校教育の一部に学齡未満の幼児を收容したのも、もう一つは宗教団体がその伝道のため、又その精神の普及のために開設したものであるといえよう。幼稚園設立の動機に関して当時の「金沢市教育史稿」によると金沢市内に最も早く始められた金沢幼稚園の沿革について次のようにしるされてある。

「小学校設置の初期に於ては児童の未だ学齡に達せざるものと雖も、父兄の志望により小学校に入學することを得しめ、其六才未満にして初級を及第したる者にありては、賞品を授与して之を奨励せしことすらありき。然るに智力の進まざる児童に學科を注入するの弊害漸く社会に認めらるるに至りしを以て、明治九年に至り学齡未満の児童を学齡児童と區別して、身心の発達に留意し保育の途を講ぜしめんが為め、同年十二月幼稚集遊場設立備考書を編制して県下に布告するに至れり、其書にいわく。

幼稚の子弟をして危害の遊びをなさしめず、差々知格の門を開くは、抑人文開致の一端にして、又父兄の義務豈其れ忽せにすべけんや、本県夙に小学の設け敷まりしより、爾來氣向漸に移り、山間幽谷の民と雖も教育の貴重すべきを知るもの実に往

年の比にあらず、勢ひ巽々焉たり、安ぞ知ん目下方に幼稚の爲め一方を立て、以て陌頭街上の遊びに換へんとするものならんとは、故に此備考を編し聊か幼稚園の階梯とし、以て有志の望に適へ、一は以て後者の標準となし、管内教育の道をして日に旺盛ならしめんことを期するものなり。

明治十五年五月石川県は町村立私立幼稚園の設置廢止規則を定め、十七年五月学齡未満の幼児は幼稚園の方法に因り保育せしめ、嚴に学齡児童と同一の教育を受けしむるを禁じ、幼児取扱心得を示す。爾來各小学校に於て学齡未満の幼児を保育する方法を計画するに至れり、事情既に斯の如く、幼稚園設立の必要を感ずること甚急なりしを以て、十八年内山行貫等は私立金沢幼稚園を金沢広坂通に設置したり、是を本県に於ける幼稚園設立の濫觴となす。二十年三月私立金沢幼稚園は其経営を石川県に移して継続維持せんことを請ひ、資料全部を石川県尋常師範学校に寄附して之を同校の付属とせり」

現在この幼稚園は金沢大学教育学部付属幼稚園となっているが、設立の事情には非常に興味深いものがある。日本の親は昔も今も、学校教育をその子どもらに受けさせることについては非常に熱心であることを思わせられる。

又當時は市町村立の小学校において校内の一部を区画し幼児を集めて保育を爲すものがあつた。大聖寺京邊小学校、松任小学

校、鶴来小学校、七尾小学校などであったが、現在もなお公立の幼稚園として残されているものがほとんどである。

次に幼稚園教育の推進に大きな役割を果たしたのはキリスト教の宣教師たちによる幼稚園の設立である。金沢においては殊に前述の英和幼稚園を始めた米国人ミス・ポートルの功績を覚えなければならぬ。明治初年にすでに宣教師たちは金沢にきて伝道をはじめその一環として教育に力をそそぎ、明治十八年には金沢女学校を創設、翌十九年に幼稚園と小学校を設立したことは、特に女子の教育及び幼児教育の重要性を市民に認識させるに大きな力となったようである。

幼稚園は初めは民家を借りて始められたが、当時ミス・ポートルをおくっていた米国伝道会社、及び米国フィラデルフィアの教会が財的援助をしたことよって建築設備においても当時異色ある幼稚園として存在した。保育もその当時東京桜井女学校幼稚園保母科で教えていた専門家ミス・ミリケンの指導を受けた吉田えつがこれにあたり人々の注目をあび、金沢市では当時の高位高官の子女が特に入園を希望し満員の盛況であったと伝えられている。これが現在の北陸学院短期大学付属第一幼稚園である。

又金沢は仏教の盛んな土地がらゆえ仏教幼稚園も数多いがその最初の幼稚園は私立木の花幼稚園で明治三十八年に設立された。

これは石川県仏教婦人会の計画によるものでこの会は旧藩主前田

家の菩提所であった天徳院の住職押野の首唱により、三十三年に設立したものであるが、その設立の事情は「金沢市教育史稿」に次のように記されている。

「石川県仏教婦人会は仏教を研鑽し婦徳を修養し、余力を以て教育及び慈善事業を庇護するを目的とするものなり、日露戦役の起こるや本会々員たる長寛、赤羽静、山田和歌、長尾静等、我国民の愛国心を喚起し深く之を腦裏に刻せしむるには、之を幼児に於てするに若くは無しとし、即ち幼稚園を設け、一は教育の普及を補ひて帝国の文華に貢献し、一は仏教の本領に従ひて四恩を報謝するの一端たらしめんと欲し、遂に有志を勧説して維持金を募集し、長町五番丁の民家を以て之に充て、幼児六十名を収容したり」

これは現在の木の花幼稚園で今なお金沢における伝統ある幼稚園として知られている。

この他金沢にはカナダ伝道会社がこの地区にキリスト教の伝道を始めるとあたり旧メソヂスト派の婦人宣教師たちが、地域の人人との接触を考慮して教会堂を開放し、幼稚園又は授産場、女子寄宿舎を開き伝道の一環としたが、当時授産場であったところに明治四十三年に馬場幼稚園、明治四十五年には川上幼稚園が設立されている。

富山県における最初の幼稚園は明治三十四年に設立された富山

師範学校付属幼稚園即ち現在の富山大学教育学部付属幼稚園であるが、この地方において幼児教育の先達として貢献したのは当時のキリスト教宣教師ミス・アームストロングである。現在の青葉幼稚園はこの人によって明治四十四年に設立された。小鳥を愛したことについても逸話が多く、日本のため、富山のためにその生涯をささげた人として市民の敬慕してやまない人である。幼い子どもの教育のために戦時中も帰国せず、困難と戦い、ついにその生涯を富山で完うされた。

現在の青葉幼稚園の一木一草、建物のすみずみにもその人格の香りがただよっていると伝えられている。

他に五番丁小学校に幼稚園が明治四十年頃に設立されたようであるが現在は私立五番丁幼稚園となっている。

福井県地方では栄冠幼稚園が明治四十年、カナダ合同教会によって設立されている。

以上明治時代における幼稚園創設の事情について調べてみたのであるが、日本に幼稚園創設の試みがなされたのは明治四年キリスト教婦人宣教師によるものであるといわれるが、これらの宣教師たちは日本の中心都市だけでなく、北陸地方のように交通の不便な文化のおそい町々にも腰をすえて伝道を励み、特に幼い子どものための教育の道をひらいたことは尊敬に値することである。

そこには多くの困難があったことをその記録によって知ることが

できるが、初代のキリスト教宣教師たちが我国幼稚園の歴史に大きな役割をもったことを銘記すべきである。又文化のおくれた北陸地方にも、明治初期の有識者、教育者、婦人たちが早くより幼稚園教育の必要を認識し、その発展と維持につとめてきたことも、幼稚園史上忘れてはならないことであると思う。

(6) 保育内容

創設期の保育内容については資料が少なく判然としないことが多いが、ほとんどはアメリカより移入されたものと考えられているが、ドイツのフレーベルによる思想とその方法の影響をうけていることは否めない。明治二十二年の文部省令は保育項目を唱歌、遊戯、手技、談話とし我国独自の保育の内容を盛り上げようとしたようであるがフレーベル式の保育の型は根づよいものとなつて残され、特に恩物による教育の普及には驚くべきものがあったようである。

又当時の英和幼稚園の卒業生の述懐するところによると、同園ではしつけは非常にきびしかったこと、又宗教教育が徹底しており、幼き心に神の姿をうえつけるために聖書の話をかかれたことが深い印象となつて残っているようである。又日本語の上手でない宣教師たちが幼い子どもたちに英語でうたなどを教えたようである。その当時の卒業生は女学校にいった時に英語の発音が非常によく先生を感心させたと伝えられている。又米国人の独創的な指導

は、フレーベルの恩物に固執せず子どもたちを自由な遊びに打ち興じさせ、まわりのあらゆる物を用いて創造的活動をする経験や、劇遊びや歌の創作なども絶えず子どもたちとともになされてきたようである。

二、大正時代

(イ) その歩み

明治四十五年には我国における幼稚園の数は文部省年報によると五三四に増加しているが北陸地方は僅かに九園にすぎない。然し大正期に入り幼稚園は増加の一途をたどった。特に著しい発達は大正期に入り幼稚園が増加したことである。北陸地方ではキリスト教の伝道のために教会の会堂を開放して幼稚園を開設したものが多く石川県では大正二年に白銀幼稚園、大正八年に野町幼稚園（現在の桜木幼稚園）、七尾幼稚園ができ、富山県では大正元年に石動青葉幼稚園（これは戦時中に保育所に変った）大正六年に出町青葉幼稚園が前述のミス・アームストロングによって始められ、大正十五年にはミス・トイーデ宣教師によって福光幼稚園が開設された。福井県では敦賀キリスト幼稚園がホームズ宣教師によって開園され、カナダ婦人宣教師によって旭幼稚園が設立されている。これらの幼稚園は皆、今も継続されて発展の一路をたどっている。

る。

仏教においても同じようなことがいえる。この大正年間には金沢市では藤花幼稚園、大谷金沢幼稚園が大正十一年に開設されている。富山県では大正九年に徳興幼稚園、同十一年に同朋幼稚園、市立では岩瀬幼稚園が大正四年に設立されている。福井県では私立尾上幼稚園、常葉幼稚園、聖ルカ幼稚園が大正四年に、文生幼稚園が同五年に、大野幼稚園が大正八年に設立されている。

(ロ) 保育内容

大正時代は人々が子どもの人格をみとめ、子どもの幸福について真剣に考え始めた時期であったといえよう。童話雑誌「赤い鳥」を中心とする児童文化運動がおこり、幼児教育界では倉橋惣三が東京女高師付属幼稚園の主事となり、フレーベルの恩物を積木遊びの道具として自由遊びの材料とするなど、倉橋惣三の幼児教育に関する新教育論が人々の注目をあびた時代であった。又時代の好況とあいまって、民主主義的な風潮もみなぎり、自由主義の教育が力をあらわしてきた時代で幼児教育の面にもその影響があらわれている。

フレーベルの恩物をそのまま用いているところ、倉橋惣三による新教育を受けられるもの、従来の表情遊戯、手技などを中心とするもの、新しく保育項目に加えられた観察について研究を始めるものなど、その指導者によって保育内容も千差万別、みかたに

よっては幼児教育が開花した時期といつてよく、金沢には幼稚園協会が大正十五年に設立され、各幼稚園は横のつながりを持ち、近代的開花への第一歩をふみだしたのである。又銘記すべきことは、大正十五年四月に幼稚園令が公布され、従来小学校令の中で取扱われた幼稚園が独立した法令によってゆるがない地歩をしめたことである。

三、昭和時代

(イ) その歩み

幼稚園令の公布は幼稚園の普及発達を積極的に促したがそれをつかの間、昭和に入ってから我が国社会は戦時体制へと入った。

長い戦争のあらしの中で北陸地方の幼稚園もその維持経営の困難に直面するもの、戦時中に保育所に変るもの、キリスト教宣教師たちの本国引上げによって建物を町村役場に接収されるもの、経営の主体を付属の教会にゆだねるものなど続出、富山県地方は戦災のためすべてを失ってしまう悲惨な状態であった。米国の援助によって支えられていた幼稚園は教会の手にわたり牧師が園長としてその任務をもち、困難な伝道のかたわらこれを経営していかなければならなかったのである。

しかしやがてこの混乱の時を経て戦後の人口増加、いわゆるベ

ビーブームがおこり、幼稚園は時を得て、復興、今日までその数も増加の一途をたどってきている。少し広い屋根のある場所があれば幼稚園をすればもうかるといった考えで、風呂屋をするか、幼稚園をするかといった人もあり、幼稚園教育は必ずしもその内容の重要性を伴わずに増加していった。

石川県では昭和五年に十六園にすぎなかったのが昭和四十年には国立一、公立八、私立四七、計五六園となり、ほとんど灰燼に帰した富山県の幼稚園は、国立一、公立五六、私立三三、合計九〇園となっている。福井県では公立一〇八、私立二九、合計一三七園である。その教育を受ける幼児数は昭和三十九年度学校基本調査報告書によると石川県・七、五五六名、富山県・六、八四五名、福井県・一〇、五九六名である。又一口に北陸地方としても経営の主体が非常に異なっていることがわかる。即ち石川県は私立幼稚園が圧倒的に多く、そのうちではキリスト教関係はわずかに五園で仏教の宗教学法人によるものが非常に多い。福井県は戦後にできた公立幼稚園が圧倒的に多く私立幼稚園ののび悩みがある。

以上北陸地方の幼稚園の歩みについて、資料不充分のため、意をつくしていないが明治時代の創設期から今日までの実情についてべてきた。

(ロ) 将来への展望

幼稚園は昭和二十二年には学校教育法の中にいれられ、同三十九年には文部省が新幼稚園教育要領を公示するなど、幼児教育が国家の基本方針のうちに明らかにされるようになったことは大いに喜ぶべきことである。公私立ともに北陸地方の幼稚園も、研修会などを通して文部省が意図する幼児教育のあり方を全面的に支持し、これにそうよう努力していると考えることができる。又その経営も個人的なものから漸次学校法人にきりかえる方針をとっている。又私学振興方策によりわずかながら助成金を受けることも可能で、園舎、設備などにも徐々に改善が加えられつつある。又対象児が一人も残らず就園するように努力されつつある。

教師も幼稚園教諭二級普通免許状をもつものが年毎に増加し、保育内容も進歩向上の一路をたどっている。更に今後四年制の教師養成機関の必要も叫ばれるであろう。

北陸地方で問題となるのは、一つは幼稚園教諭の勤務の平均年令が非常に短かく、ほとんど二、三年で結婚をするといった状態で、幼児教育の問題について積極的かつ累積的な研究をつづけるものが少なく、学問を現場の保育に生かしこれを実験し、子どもの生活と密着した保育のあり方を確立する意欲と情熱をもつ保育者が少ないことである。

又勤務内容も近代化されず、雑用多く、重要な研究に時を費すことが非常に困難である。

又待遇問題の改善、幼稚園教諭の地位の向上などに関して経営上の問題と教師の使命感と自覚を必要とする問題は山積している。特に都市よりも地方に多くの困難がある。

又一方その子どもを幼稚園に出す父兄たちの幼児教育に対する正しい認識を必要としているといえよう。小学校教育ほどの重要性を幼児教育に期待せず、むしろ小学校教育への準備の段階としてしか、その必要をみとめないことが多い。試験制度、入学難などの問題は幼児教育をもむしばむことが多く、幼稚園時代から競争率の高い有名園をめざす父兄も多い。官僚的な考え方から私学の独自の教育の立場を理解せず、子どもの個性、能力をも省みないことも多い。

父兄会、母の会は財的援助をすることによって保育内容にまで干渉し、正しい教育が混乱することも少なくない。

以上のような現代の幼稚園教育がおちいりやすい弊害が、絶えず正しい指導によって方向づけられ、今後更に数だけでなく内容の充実した保育が、すべての子どもたちの幸福のために展開されることを願うものである。婦人と子どもを重んずる国は必ず栄えることを信ずるが故に、又一人の人の生涯は、その幼児期の教育によって左右されることが多いことを信ずるがゆえに、多くの同労の友とともに幼児教育の発展につくしたいと念願するものである。

(北陸学院短期大学)